

「災害リスク可視化・避難ルート検索」サイトで県民・観光客を災害から守る 自治体のタイムラインの標準化・高度化で地域を災害から守る

採択事業者名 三井住友海上火災保険株式会社
 コンソーシアム構成員 MS&ADインターリスク総研株式会社／株式会社エス・ピー・シー／東京大学沼田研究室／今治市防災危機管理課／宇和島市危機管理課

勉強会の実施概要	
勉強会の目的	今治市：実装検証結果詳細を報告し、1年間のシステム開発の成果(技術・UI)を認識合わせ。次年度のすすめ方を今治市と摺り合わせ。宇和島市：次年度開催のワークショップの内容及び準備内容を時間軸と共に摺り合わせ。
勉強会の当初のゴール想定と結果	今治市：実装検証の結果、技術面もUIも高評価との認識が一致。本サイト導入に向け論議。宇和島市：BOSS活用のワークショップのテーマ・すすめ方は皆賛同。東大からも支援に前向きな回答。準備の段取りも摺り合わせた。
参加者	今治市：愛媛県、ReGACY、今治市、しまなみジャパン、エス・ピー・シー、インターリスク総研、三井住友海上 宇和島市：宇和島市、エス・ピー・シー、インターリスク総研、三井住友海上 *東京大学急遽欠席により事前回答メールあり
協議アジェンダ	今治市：本プロジェクト目的・概要、実装検証結果共有・認識合わせ、次年度すすめ方 宇和島市：ワークショップテーマ・すすめ方、BOSS画面共有、準備段取り
データに基づく協議ポイントの整理	実装検証体験者のアンケート結果より、見やすさ、操作しやすさ、満足度等のデータを可視化し、「昨年度との比較より、昨年度の課題が改善されているか」「KPIとも比較することで、目標通りにUI・UXが向上し機能強化が図られたか」を協議する。
主なデータ項目	実装検証体験者のアンケートから得られた「検索ルートの満足度」「言葉の意味や地図の見やすさ」「操作のわかりやすさ」「サービス全体の満足度」「4項目平均」。
協議におけるガイドライン(含む具体例)	「検索ルートの満足度」は、工事現場を避けたいなどどちらかという追加要望を見る項目。「見やすさ」「操作しやすさ」は高齢者が利用者になることも多く重要な項目であるが、「操作しやすさ」が昨年度比最も大幅アップ。サービス満足度はKPIとなる最も重要な項目であるが、今年度のKPI(5段階)3.5に対し3.8にて達成。
「実装成果」実現に向けた示唆/考察	「避難ルート検索」の技術・UI面はサービスインレベルまでは到達と判断。今年度コンセプトに加えた「災害リスク可視化」は、雨量・河川水位・キキクルがリアルタイムに把握でき、実装検証体験者アンケートでも高評価。本サイトの利用機会も大幅に増えると認識。



	2023年度	2022年度	差
1. 提示されたルートに関する満足度を教えてください	3.9	3.7	+0.2
2. 表示された言葉の意味や地図の見やすさはいかがでしたか?	4.0	3.6	+0.4
3. 検索に関するの分かりやすさはいかがですか?	4.0	3.4	+0.6
4. 現状でのサービスの満足度を教えてください	3.8	3.4	+0.4
4項目平均	3.9	3.5	+0.4

データ活用・協議の具体例		
	実装前	実装後
重要指標例	<ul style="list-style-type: none"> 実装検証体験者アンケート結果 「検索ルートの満足度」「言葉の意味や地図の見やすさ」「操作のわかりやすさ」「サービス全体の満足度」「4項目平均」 *本サイトの可視化データ:雨量、河川水位、気象庁キキクル、ハザードマップ、避難場所・避難所 	
データ取得	<ul style="list-style-type: none"> 市民が災害リスクのリアルタイムデータを見ることは殆どない(気象庁HPを見ると、キキクルを見ることは可能だが、まず見ない)。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民が災害リスク(雨量、河川水位、キキクル)をリアルタイムに見ることが可能。
データ利用	<ul style="list-style-type: none"> 危険箇所を避けたルート検索画面は存在しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民がリアルタイムに災害リスクを見て、在宅避難、縁故等避難、避難所への避難等判断し、避難する際はキキクルを避けた避難ルートを検索し、避難可能。
実行	<ul style="list-style-type: none"> 少ない情報で、自ら避難すべきかを判断し、避難する際は、自分の土地勘で避難。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民がリアルタイムに災害リスクを見て、避難するか否かを判断。避難する際はキキクルを避けた避難ルートを検索し、安全ルートで避難実施。
協議	<ul style="list-style-type: none"> 情報、データが少なく、協議不能。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害リスクのリアルタイムデータの活用や避難ルート検索の検証により、本サイト活用の方向性を論議可能。 なお、実際の災害時には、まだ見えていないリスク、可視化されていないリスクも多数想定され、市民は可能な限り他のルートからも情報を入力し、判断、避難することになる。

データ活用・協議による成果

- 災害リスク(雨量、河川水位、キキクル等)をリアルタイムに見られることは、市民が災害対応を判断するにあたり有益。
- また、避難する場合に、キキクルを避けたルート検索ができることも、安全ルートで避難するうえで参考になる。
- 実装検証の中で、本サイトは技術面・UI面でサービスインレベルまで到達と判断。
- 今後、自治体や観光事業者等に導入を働き掛けていく。

勉強会実績